

未来へつなぐ資源循環!

～広がる津市の脱炭素の取り組み～

環境政策課 ☎229-3212 ファク 229-3354

POINT

どうして手選別するの?

汚れや異物が混ざるとリサイクルの品質が低下するため、手作業で丁寧に取り除き、新たな資源として活用しています。



川口小学校4年生が容器包装プラスチックの手選別を見学する様子(津市リサイクルセンター)

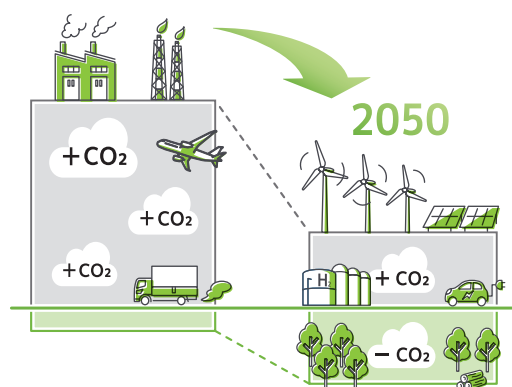
津市では、令和4年8月に「津市地域脱炭素宣言」を表明し、2050年までに地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスの、排出量から吸収量を差し引いた合計をゼロにする「温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指しています。市民や事業者、団体の皆さんと共に資源循環、再生可能エネルギーの普及、森林環境保全など、さまざまな分野で地域脱炭素行動を実践・実行・実施しています。

脱炭素と聞くと難しく感じるかもしれませんが、省エネ家電の利用やごみの分別といった日常の行動もその一つです。また、プラスチックの資源循環、廃食油の再資源化などのリサイクル・リユース活動、太陽光発電設備購入など再生可能エネルギーの活用、森林整備による二酸化炭素吸収量の増加分などを「オフセット」として創出するといった幅広い取り組みを行っています。

こうした取り組みを推進していくため、これまで25の事業者・団体と18のパートナーシップ協定を締結してきました。サントリー食品インターナショナル、サントリーホールディングス、協栄J&T環境と連携し、使用済みペットボトルを新たなペットボトルに生まれ変わらせる水平リサイクルの実現をはじめ、おぎ

そと連携し、リサイクルPET樹脂を使用した学校給食食器の活用、ENEOSと中川油脂商店との廃食油の回収・再資源化、三重トヨペットとの電気自動車など次世代自動車の普及促進、鹿島建設との高炉セメントコンクリートの活用による環境価値の創出など、多岐にわたる分野で事業者と協力しながら、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを進めています。

さらに69の参画者が集う地域脱炭素推進プラットフォームを設置し、脱炭素の取り組みに関する情報共有や連携を進めています。2030年度までに温室効果ガス48%削減を目指し、これからもあらゆる分野の多様な主体と力を合わせ、脱炭素社会の実現に取り組んでいきます。



カーボンニュートラルのイメージ